

要点「日本文化原論 永続思想 主体性学」

1) 普遍的不変性の探究と導出と稼働

1-1 思想の初動性

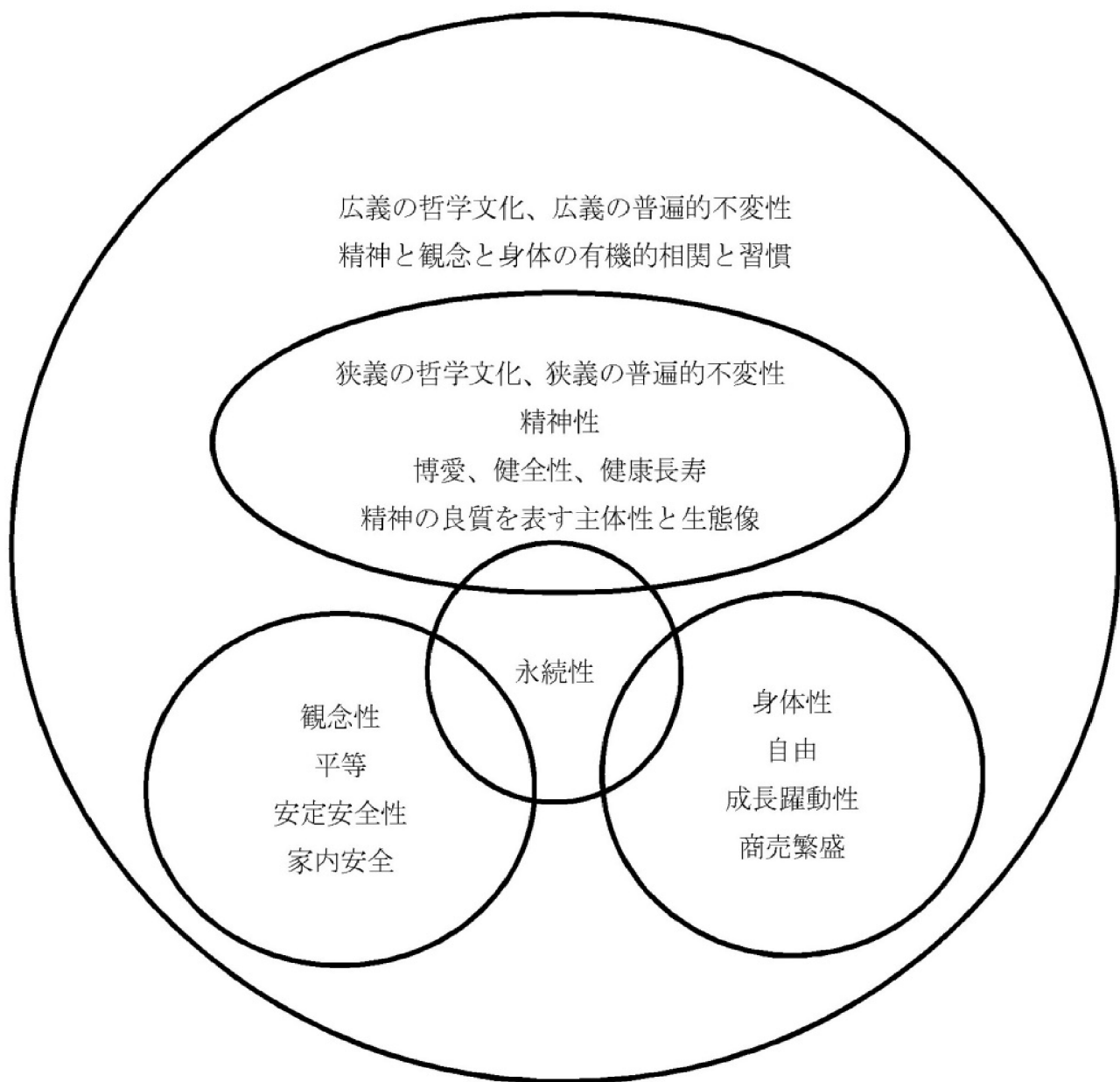
思想と言えば「保守と革新」等という政治思想が代表的なものであり人々が良く用いられる概念と適用という認識が起こる。保守は既成的な秩序を重んじる。革新は新規的な秩序を求める。「既成と新規、維持と変化」に対し、どのような納得感や説得力を持って自他との良好な社会性や公益性を実現するか等といった観点と論理が引き出される。例えば、AさんはC市という地域に、最近、引っ越してきた。既にゴミの出し方等という日常の習慣や慣習が稼働している。まずはそのルールに従い既成の人々が決定した基準と稼働を習いどのような意味や効果が存在するかを身をもって体験し有用性の認識と共に改善点の発見を進め既成の秩序よりも良くなる方式の提案に至って新規性の納得と合意と更新に回る。いきなり何もせずに、新規的な方式を身勝手に行えば既成の住民から反発と対立が生じ混乱と争いの因果を出現させる。こうした観点が社会や政治等という初動的且つ具象的な現象となって個々の体験と正負の蓄積と改善と稼働の周期性を持って多種多様な用語の形成と活用へ及ぶ。具象的な観点と誰にも伝わる現象を土台性に持って準抽象や抽象の概念という対象範囲の広狭に相応する概念と現象の対称性をもって極端な飛躍性の因果に陥らぬ頭と体の整合と精神性の健全性が形成される。根源的な因果性や原理の導出に及び具象と準抽象と抽象の整合する体系観や領域性を遂げ、生態の健全と永続の軌道と循環性が産まれる。「保守と革新」等という抽象概念を唐突的に引き出し用いると解釈の幅が広がり、意味不明性が高まりどこか飛躍性や唐突感を招いて不協和性を生じさせる。基礎基盤性の原理の萎んだ専門性等という性格を出現させプラス心象よりもマイナス性の因果を増した生産性を招く事への反省と適正化の原理等という法則性が形成される。

1-2 万人的同一性

「家内安全と商売繁盛」や「平等や繁栄」といった万人性の欲求や祈願の同一性の認識を揃え誰もとと同じような性格を有する人間性や人間像を土台に整え自己のみならず他者の欲求との同一性を根源原理に起こし一方向の要望の強まる歪性の拡大に陥らぬ根源且つ根幹性を有する生態の芯が作られる。普遍的不変性なる基準と同一基盤性を持つ社会と人間の土台観を備え既成的な秩序の同一基盤性の基に、確かな基準の形成と更新を重ねる人間性が稼働する。過去の先人達のプラス的な創造の成果となり既成的秩序や基準が形成され後世に適正な基準を継承し更に良くなる発想と意欲を起こし代々と良くなるような基準と知恵の導出と改善の存続する人間性と生態系の軌道が産出される。誰もと同様な基準を求める精神性が存続する。人間と生態の健全性と永続性を求める根源且つ根幹性の認識が作られる。

「自由と平等と博愛」等という理念の導出とも通じる体系観が描きだされる。誰にも伝わるような言葉を初動にもって、抽象性の概念と整合の概念体系に至って、同一性の基準と稼働性の高まる言葉や概念と作用する。「健全性・健康長寿・博愛」等という観念は人間の身体性の健康のみならず、精神性の健康と共に言葉や概念の導出と活用の適正等という面も加えて、精神と身体と観念の相関と有機的な姿と形と習慣性をもって、人間の変わりづらい健全像が作られる。

・身体的健康・精神的健康・言葉や概念の形成と稼働に見る健康、
生物物理的な身体上の生命観に対し、良好な精神性の存続等という面への意識が出現し言葉や概念の導出と稼働という側面を合わせて、変わりづらい人間像を生み生態系の芯となって各種の対象性や広狭性に反映させる基本原理と適用の習慣性という一般法則性に及ぶ。身体的な健康は、精神的な健康と密に関わり言葉や概念の形成や用い方等という側面から、内面性を伺う観点が出現する。生み出す言葉や道具や装置等というあらゆる創造力に、良好な精神性が挿入され人間や自然と創造の一貫した性格をもって生態の健全と永続の思想と稼働の世界観が形成される。



1-3 不健全性の対処と予防策

「意味不明性の高まる言葉と活用」等という心象や実感が増すようであると、どこか精神性には不良の質感が進む。変わりづらい人間の完結的な適正概念を整え、分化性の進行に対し、統合性の制御をもって、変らぬ生態の適正を求める発想に回る。精神と観念と身体と相関の動態性と、対象性における広狭の範囲や深淺の観点を持って、静的対象の分化と統合を果たし動的側面と静的側面の分化と統合の適正な制御性に向けられる。あまりに普遍的な不変の人間像から離れるような発想や現象が高まると、人間の根源性と根幹性の崩れた人間と生態を起こし、永続的な軌道の萎んだ世界観に陥る。いつの時代やどこの空間にも変わらぬ基準と

なる人間像を土台にもって、自然観や社会性と生態系の形成軌道を遂げる。出てきたものばかりケチをつけ自己の側に問題の原因を求めないと自己の側の見識や見解が向上せず外界への要望過多の歪性を生む。消化不良の概念と活用の粗雑性等という現象が増し非人間性と非社会性と非公益性の性格が増す。病んだ精神性の人間に及ばぬ適正概念の導出と確信性が高まり歪性への制御と適正化が促進される。適正と不適正を見分ける確たる基準像の導出を果たし稼働に及ばせる作為が進む。確かな人間と生態を映し出す鏡を描き出す作為が求められる。